

令和 6年 3月31日

新潟市立乳児院

令和5年度

事業報告書

指定管理者

社会福祉法人 愛宕福祉会

理事長 石崎 昂一

管理責任者 一ノ瀬里絵子

1. 管理運営業務の実施状況

今年度は、総在籍数でみると入所措置された子どもが約85%、一時保護が15%となる。年度の特徴としては、定員の中で入所措置のお子さんが年間を通して8人～10人というところで退所したところに一時保護の子どもが入所してくるという状況だった。新潟市児童相談所より、定員を超えての一時保護の受け入れの連絡も何度もいただくが、長期にわたっての定員を超えての受け入れはショートステイの受け入れ枠の確保を考えると難しい状況にあったため年間を通して19日に留まった。今年度は4月から8月にかけて2名、8月以降は1名の医療的処置が必要な乳児のケアもあり、施設全体として感染過にならないように気を付けて過ごしたが、RSウイルスの感染での入院、新型コロナウイルスの流行もあった。乳児、3歳未満の幼児の集団生活においては、一人が発症した段階で、他の子どもも概ねり患している可能性が高かったり、子ども側が予防策をとることができないために多くの職員も感染してしまう状況が起きた。過度な感染対策はあまり効果がないだけでなく、生活に支障が出てしまうことのほうが大きいため、状況を見ながら緩やかな感染対策と子どもの容態の観察をしっかり行い早めの受診という対応を看護師を中心に行った。

入所している子どもの家庭引き取りに向けての支援や保護者の対応については、面会・外出・外泊等々なども含め298回の支援、対応を行った。また、退所後の支援について7名約60回となっており、退所したら終了ではなく、退所後の支援も子どもが安定した生活を送るために重要となっている。最終せずに2024年度も継続中となっているケースもある。

里親に関する事業については、里親実習の受け入れは24名。実習に関しては、里親担当の相談員が昨年度同様オリエンテーションや振り返りの時間を持ち、乳児院という施設の役割や実際の乳児院での生活での実際の理解が深まるよう支援した。また、児童相談所の依頼で年に4回、それぞれの専門職(心理師・看護師・保育士・相談員)が乳幼児に関する講座をさせていただき、里親と交流する機会となった。2023年度は2件の委託となった。うち1件は、引き続きアフター支援を継続中である。

2020年度より取り組んでいる「食事の支援」については、子ども家庭庁が策定する「児童福祉施設等における食事の提供ガイド」に当施設の支援の取り組みが事例として掲載されることとなり、それに伴って開催された母子保健指導者研修の際にも事例として当施設の管理栄養士が施設の取り組みを発表する機会をいただいた。

養育の質の向上としても、2022年度から実施している養育研究、ライフストーリーワークなども引き続き継続して実施している。養育研究のほうは、2024年度にいったんまとめをする予定としている。また、当施設の小規模グループケアの取り組みを2024年度に開催される全国乳児院研修会で事例発表させていただくこととしており、当施設の10年のあゆみを振り返る機会とし、新たな課題への取り組みを実施していきたいと準備をしている。

2. 苦情及び要望等の受付状況

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3. 実習生受け入れ状況

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保育			1	1	1	1		1					5
社会福祉士					2		1	→			1		4
心理						1		1					2

社会福祉士8月2名は現場実習1日×2名の受け入れ

* 里親実習は別途記載

4. ボランティア受け入れ状況

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	12	15	21	7	7	11	10	19	14	7	6	12	141

合計受け入れ数 141名(前年171名: 30名減)

定期ボランティア アリスの会(4名)様 にゃんこの会(2名)様 個人(1名)

不定期ボランティア ぽんぽこ(4名)さま ぴーかん娘様

7月8月はRSの流行、2月はコロナウイルスの流(9月末にコロナ1名ののみ患)

感染症の対応期間はボランティアの受け入れを停止している。

また、冬場の1月~2月は定期のボランティアさんがお休みとなった1月2月も数としては減っている。

5. マニュアルの改訂

今年度も見直しを実施し、養育の手順変更があったもの、内容変更があったものについてマニュアルの変更差し替えを実施した。

*差し替えたマニュアル

お散歩マニュアル(追加・変更)

保育実習マニュアル(追加・変更)

6. 地域との連携 地域への貢献

① BPプログラムの継続実施

* 新型コロナウイルスの感染拡大により、当施設の建物事情や状況を考慮し、今年度も実施は見合わせた

② 離乳食講座

* 新型コロナウイルスの感染拡大の状況をみながら実施する予定だったが、食事場面ということもあり、実施しなかった。

里親対象の1組限定での離乳食講座を実施している。別紙里親支援事業報告参照。

③ 児童相談所との連携

* 児童相談所の要請により、2階の貸し出しを行った。

* 連携会議、要対協への参加

* 相互研修の実施、防災協力

④ 地域との交流

当施設は、児童相談所、陸上競技場、家庭裁判所、市役所など公的施設が集中している地域であり、一般民家がないため地域住民との日々の日常をとおした交流は持ちづらい。地域の子育て支援施設を利用することで、地域の子育て家庭との交流を図っていたが、コロナ禍により子育て支援施設の利用は一般の利用者優先となるだろうと遠慮させていただくことも多かった。ボランティアとの交流を感染状況をみながら実施し、子どもは地域の住民と触れ合う機会とした。